



アレマ隊員インタビュー

(平成25年度)



目次

第9回	鈴木 誠先生：仙台市立桂小学校	1
第10回	菊地 未帆さん・松川 奈央さん・菅野 桃花さん：89ERSチアーズ	4
第11回	高橋 義明さん：妙法産業株式会社	6
第12回	紅邑 晶子さん：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター	8

「アレマ」ってな～に？

「アレマ」とは、ポイ捨て行為に驚いて思わず言ってしまう言葉。

仙台市では、ポイ捨てを見て「アレマ～」と驚き、ごみ拾いをすることによって

「ポイ捨て反対！」を表明する人たちのことを「アレマ隊」と呼んでいます。

「アレマ活動」は、「捨う」「数える」「考える」、身近な場所で、いつでも、だれでもできる、ごみ拾い活動なのです。

✧ アレマ隊 3つの誓い ✧

1. わたしたちは、「ポイ捨て」を「見て見ぬふり」は決してしません。「アレマ！」と驚きます。
2. わたしたちは、家族や恋人や友人に決して「ポイ捨て」させません。
3. わたしたちは、アレマ隊の名誉にかけて、ごみの散乱のない快適なまちづくりを進めることを誓います。



地域の方々の温かい協力を得て、楽しみながら「ごみのポイ捨て」対策を実践!

今回ご紹介するのは、泉区にある桂小学校。同校では、「総合的な学習の時間」において、学年ごとに設けられたテーマに沿った学習活動を行っています。昨年の4年生は「ごみのポイ捨て」について考えることを学年共通の課題に選びました。地域の公園や歩道のごみを拾うことから始めて、どうすればごみのポイ捨てをなくすことができるのかを考えた子どもたち。課題を解決するために、地域の方々との関わりを深め、行動し、考え、子どもたち一人ひとりの意欲や才能が発揮されました。印象的なフレーズが耳に残るポイ捨て防止ソング「ポイ捨て、ゆるさねど!」もこの学習活動から生まれています。そこで、子どもたちの学習活動を支えた、当時担任の鈴木誠先生にお話を伺いました。



仙台市立桂小学校教諭

鈴木 誠先生

地域の方々の協力を励みに

聞き手：学習のテーマは、どのようにして決めたのですか。

鈴木先生：4年生のテーマが「環境問題」なので、まず自分たちが住む町を見直すことから始めて、桂の「良いところ」や「課題」を子どもたちに挙げてもらいました。その中に、「ごみのポイ捨てが目立つと思う」という意見がありました。その後、興味を持ったテーマごとにグループに分かれていき、『桂・もっといいまちプロジェクト』として、自分たちが住む町をもっと良くするためにはどうしたらいいかを、地域の方々の感想やご意見を交えて考えてみることにしたのです。

プロフィール

新潟県出身。
仙台オペラ協会の歌手としても活躍中。

聞き手：地域の方々の声は、どのようにして集めたのですか。

鈴木先生：桂小学校では、「人とかかわり、自信をもって生活できる子供の育成」という協働型重点目標を掲げておりますので、地域の方々にご協力いただくことにしました。子どもたちが作ったアンケートを、お家の方にも協力してもらい、ご近所にポスティングしました。回収は、校門に設置した専用ポストに投函していただいたのですが、直接学校に届けてくださる方や、「〇〇ちゃん、がんばってね」とメッセージを書き添えてくださる方が大変多くいらっしゃって、子どもたちはとても感激していました。地域の方々の協力が、子どもたちの活動の大きな励みになりました。

聞き手：そのアンケートで寄せられた意見を参考にしながら、学年共通のテーマを「ごみのポイ捨て」に決めたのですね。

鈴木先生：はい。そこで、桂にはどれくらいごみが落ちているのか調べようということで、みんなで公園や歩道を回ってごみを集めてきました。一見するときれいな公園も、植え込みの中に風で押し込まれたごみが予想以上にありました。それを分類してみると、お菓子の袋が多く、子どもたちは「ポイ捨てするのは、子どもが多いのかな」などと感想や意見をぶつけ合いながら、ごみのポイ捨てを無くすにはどうしたらいいかを考えました。そこで、「ポイ捨て防止ソングを作ろう」とか「4コマ漫画を作りたい」、「看板を立ててみんなに呼びかけよう」といった声が上がって、実際に形にしていったのです。作成したポスターは、連合町内会の会長さんが協力してくださり、町内に掲示することができました。



子どもたちが作成したポイ捨て防止の看板。



4コマ漫画で「ポイ捨て防止」を訴えるグループのポスター。

学習の成果を披露

聞き手：実際に、ポイ捨て防止啓発ソングはどのようにして出来上がっていったのですか。

鈴木先生：まず、子どもたちに自由に作ってもらうことにしたのですが、楽譜が書けないので歌ってもらうと、歌詞もメロディーもよくまとまっていたのでびっくりしました。そこで私が楽譜にし、ピアノ伴奏をつけるなど編曲をしました。歌詞にも「ゴミを拾ってくれる人が苦労をしているの知ってるかい」とか、「捨てるも誰にも気づかれないって、思っちゃいけません」とか、地域の方々が早起きをして公園のごみを拾ってくださっている様子を見たり、ポイ捨てする人の心理を考えたりした学習の成果が盛り込まれているのがよく分かります。

また、仙台弁を歌詞に盛り込んだのは、子どもたちが曲を作るときに参考にした歌が、関西弁だったことが影響しているんです。「この歌も関西弁にしたい」と子どもたちが言うので、「ここは仙台なのだから、歌詞に盛り込むなら仙台弁でしょう」とアドバイスしたのですが、私自身は仙台出身ではないので、仙台弁を自在に使いこなすことができる、教頭先生に御指南いただいたという訳です。

聞き手：曲を聴かせていただきましたが、確かに小学4年生の作品とは思えない出来栄えですね。この「ポイ捨て、ゆるさねど!」を始め、学習の成果を地域の方々に披露する機会はあったのですか。

鈴木先生：学年の最後に、総まとめとして校内の発表会を行いました。アンケート結果から分かったことや考えなどを、模造紙にまとめて校内に掲示したり、運動会の昼食時に「ポイ捨て、ゆるさねど!」を流しました。休み時間にライブもしたんですよ。また、連合町内会の会長さんが、町内会の行事でこの曲を流したいとおっしゃっていましたので、今後、この曲が流れる機会が増えるかもしれません。

聞き手：子どもたちが楽しく学習し、生き生きとその成果を披露した姿が目に見えそうです。

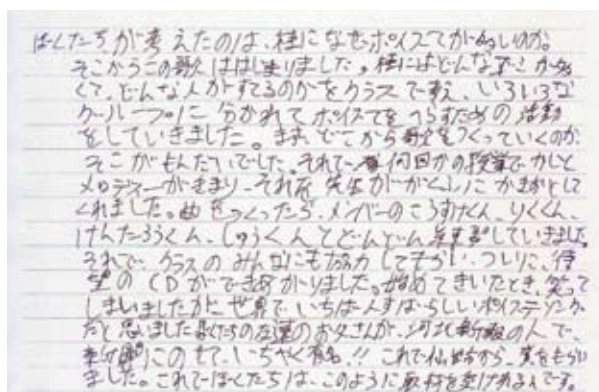
鈴木先生：自分たちが誰かに働きかけることによって、反応があったことが嬉しかったでしょうし、意欲が湧いたのだと思います。私自身も楽しかったですし、子どもたちは期待以上に良くやったと思います。

聞き手：子どもたちの心には、誰かがポイ捨てをしたとき、またごみが落ちているのを見たとき、今まで以上に「アレマ!」と思う意識が強くなったのではないのでしょうか。子どもたち自身が、「町にごみが少なくなった」と実感できる日が早く来るといいですね。

鈴木先生：そうですね。子どもたち一人ひとりが町について考えることで、「自分たちは町の中でどんな存在になっていくべきか」を考える入り口に立つことができたのではないのでしょうか。これからも地域の方々と交流しながら、そしてご協力をいただきながら、教室の中だけでは学べない経験を積んでほしいと思います。



自分たちで集めたごみを分別。お菓子の袋が多いことから、「ポイ捨て」をするのは大人だけではなく、子どもにも関係があることに気がつきました。



「ポイ捨て防止ソング制作班」の一員として、作詞とボーカルを担当した子どもの感想文。班のメンバーと力を合わせ、一生懸命に活動に取り組んだ様子が伝わってきます。

『ポイ捨て ゆるさねど!~ポイ捨て防止ソング~』

作詞・作曲:桂小4年2組ポイ捨て防止ソング製作班

仙台弁指南:教頭 門脇恒明 編曲:学級担任 鈴木誠

ポイ捨て ゆるさねど!
~ポイ捨て防止ソング~

作詞・作曲:桂小4年2組ポイ捨て防止ソング製作班
仙台弁指南:教頭 門脇恒明
編曲:学級担任 鈴木誠

♩=80 **A**

B

みんななんでもゴミすてるの かつらがだいなし オーマイガッ
すててもだれにも きづかれなくて おもちちやいけません
ポイすてるひと ゆるしません ポイすてるひと ゆるしません

- 1 -

18

ちやんとゴミばこに すてましよう ポイすてやめましよう

C

22

ゴミをひろって くれるひとが くらうをしてるの しってるかい

26

あなたがポイポイ すてるゴミも だれかがひろうの よ

30

ポイすてるひとと ゆるしません ポイすてるひとと ゆるしません

- 2 -

34

ちやんとゴミばこに すてましよう ポイすてやめましよう なん

D

38

ですてるの あなたもきつと ね

42

れいなか づらがすーき

rit. *Tempo 1*

E

46

ポイすてるひとと ゆるしません ポイすてるひとと ゆるしません

- 3 -

50

ちやんとゴミばこに すてましよう ポイすてやめましよう

F

54

ポイすてるやつ ゆるさねど ポイすてるやつ ゆるさねど

58

すつかどゴミばこに すてつべね ポイすてやめつべや

G

62

ポイすてポイすて ポイすてポイすて ポイすてやめましよう

- 4 -

曲自体の完成度の高さもさることながら、子どもたちの歌声がとても素晴らしいです。



アレマ活動は、地域の方々とふれあえる楽しい時間です!

今回ご紹介するのは、プロバスケットボールチーム仙台89ERSのホームゲームを、明るく元気なダンスで盛り上げる89ERSチアーズ。小学生から成人までのメンバーをけん引する3人のメンバーと、仙台89ERSで地域活動を担当している川村亜紀さんにお話をうかがいました。

地域に愛され、応援されるチームに

聞き手：ごみを拾う活動を始めたきっかけは、どんなことだったのですか。

川村さん：チーム創設3年目の、2007年からホームアリーナ周辺の清掃活動を続けていますが、仙台89ERSが地域に愛され、応援されるチームであるように、そしてホーム開幕戦に向けて、ごみを拾うことで会場周辺をきれいにしようと取り組んだのが始まりなんです。

聞き手：アレマ活動を「やって良かったな」と感じるのはどんな時ですか。

菊地さん：私たち89ERSチアーズを含むスタッフを始め、ボランティアや地域の皆さんと一緒に力を合わせて活動し、その結果、きれいになったホームタウンを見るのはやはり気持ちがいいですし、「やって良かったな」と思います。また、ごみを拾いながら皆さんとゆっくりお話ができるので、とても貴重な機会だと思っています。

松川さん：活動当日はチームキャラクターのティナも参加するのですが、大人気で、小さいお子さんもティナの真似をしながらごみを拾ってくれるんです。参加者の中には仙台89ERSのことを知らない方もいらっしゃるのですが、お子さんとは「この子はティナっていうんだよ」と紹介したり、大人の方にはチームのことを紹介したり。活動を通して参加者の方々とコミュニケーションをとれることがうれしいです。

川村さん：去年はホーム開幕戦の会場が、あすと長町の「ゼビオアリーナ仙台」だったことで、長町の商店街の方々もアレマ活動に参加してくださいました。実は商店街の皆さんが、昨年からは商店街の街路灯にオリジナルで仙台89ERSを応援するフラッグを作って掲出するなど、とても積極的に応援してくださっていて、さらに今年はそのフラッグの数を倍に増やしてくださいました。ホームタウンの温かさが実感でき、選手たちはもちろん、私たちもとてもありがたく、うれしく思っています。

菅野さん：私は去年、初めて参加したのですが、子どもたちと「たばこの吸いがらが多いね」とか、「なんでポイ捨てるんだろう」とか、いろいろな話をしながら楽しくごみを拾うことができました。その時まで長町をあまりよく知らなかったのですが、町並みの美しさや商店街の皆さんの町に対する熱い思いにふれることもできて、良かったなと思っています。



89ERSチアーズ

キャプテン **菊地 未帆さん**
プロフィール (写真中央)
宮城県出身。
かわいい動物の動画を見るのが趣味。チアのインストラクターとしても活躍中。

副キャプテン **松川 奈央さん**
プロフィール (写真右)
宮城県出身。
身体を動かすことが好き。

副キャプテン **菅野 桃花さん**
プロフィール (写真左)
宮城県出身。
趣味はダンスをすること。



笑顔でインタビューに答える
キャプテンの菊地 未帆さん

聞き手：今年もアレマ活動を行うそうですが、心がけたいことや抱負などがありましたらお聞かせください。

菅野さん：お子さんたちは、友だちと競い合うようにしてごみを拾ってくれるんです。まさに宝探しとか、ゲームのように夢中になるので、誤って車道に飛び出したりしないように、参加者の皆さんの安全面にも気を配りたいと思います。

松川さん：私も菅野さんと同じ思いです。安全に楽しく実施できるよう、目配りと気配りを忘れないようにしたいと思います。私はいま大学生なのですが、「今度、地域の人たちとごみ拾いをやるんだよ」ということを折にふれて友人たちにアピールすることで、「ごみを拾う活動をしている人がいるのだから、ポイ捨てはやめよう」と思ってくれたり、ごみが落ちていたら拾ってくれるようになるといいなと思います。

菊地さん：この活動には何度も参加していますが、回を追うごとに落ちているごみの量が減っているような気がします。もしかすると、アレマ活動がポイ捨てを減らすのに役立っているのかもしれないですね。実は、私はチアのインストラクターとしても子どもたちと関わっているのですが、「ごみのポイ捨てはしない」とか「ごみが落ちているのを見つけたら、拾ってごみ箱に捨てる」といったマナーを守るよう、いつも子どもたちに話しているんです。子どもたちだけでなく、レッスンについて来られる保護者の方々も私の話にうなずいてくださるんですね。その様子を見ると、ちょっとうれしい気持ちになります。このようにマナーを守る大切さを伝えることは今後も継続していきたいと思ひますし、私たちの愛する町をきれいにしたいという気持ちを、アレマ活動を通して地域住民の方々にお伝えすることで、「地元を大切にす仙台89ERSを応援しよう!」と思っただけであればありがたいですね。

川村さん：今年は 10月6日(日)にアレマ活動を実施しますので、一人でも多くの方に参加協力していただけると嬉しいです。この活動はどなたでも参加していただけますので、私たちと一緒に町をきれいにしましょう。ティナも待っています!

89ERSチアーズのごみ拾いスタイル! 仙台89ERSのチームカラー「イエロー」が目印です。

仙台89ERSの新シーズンのホーム開幕戦に向けて、開催の1~2週間前の週末に実施しています。チームカラーのイエローのTシャツを身につけたチームスタッフやチアーズ、そしてティナも参加。ボランティアや市民の有志の方々総勢100人ほどで、ホーム開幕戦の会場である太白区あすと長町の「ゼビオアリーナ仙台」周辺のごみを拾う清掃活動を行っています。



仙台89ERSチームキャラクター「ティナ」のクリーンアップ大作戦

1. 日 時 10月6日(日) 午前8時15分から9時15分
 2. 集合場所 長町駅前プラザ前(JR長町駅西口)
 3. 集合時間 午前8時15分
 4. 清掃場所 JR長町駅~長町商店街
 5. 持ち物 軍手
 6. 参加方法 直接集合場所へ。団体の場合のみ事前に電話で下記に申し込みください。
- 主催：89ERSとともにまちづくりをすすめる会「イエローブースターズ」、仙台89ERS
申込・問い合わせ：事務局(仙台市市民局スポーツ振興課) TEL022-214-8800



仙台89ERS
キャラクター「ティナ」

©SENDAI 89ERS/bj-league

アレマ活動が、「思いやりの心」を育てています。

今回ご紹介するのは、宮城野区にある妙法産業株式会社。昭和22年に豊やふすまを手がける室内工事業として創業し、現在は県内を中心に公共施設から個人住宅の室内・外装工事を行っています。仙台まち美化サポーターとして、平成13年から活動を続けられています。



ごみを拾うことも、地域への恩返しです。

聞き手：ごみ一つ落ちていない、きれいな社屋ですね。

高橋さん：ありがとうございます。社内がきれいに保たれているのは、アレマ活動をはじめたことも関係していると思います。まちの清掃活動を続けているうちに、今ではごみが落ちていないと気になってしまい、事務所内に落ちているごみはもちろん、エントランスに入り込んだ落ち葉まで気になるようで、誰もが率先してごみを拾うようになりました。

聞き手：そもそも、アレマ活動をはじめたきっかけは、どのようなことだったのですか。

高橋さん：平成12年に「環境ISO」とも呼ばれているISO14000を取得したのをきっかけに、自分たちの事業活動を見直して、廃棄物の削減をはじめとする環境に配慮した事業活動を目指す改善策を立てました。その一環として、お世話になっている地域に対しても、自分たちで何かできることはないかということで、まち美化サポーター、そしてアレマ隊員としてごみを拾う活動をはじめたわけです。

聞き手：最近の活動の様子や感じていることをお聞かせください。

高橋さん：会社の前の通りをはさんで、向かい側がクリネックススタジアム宮城なんですけど、東北楽天ゴールデンイーグルスの試合があった翌日は、残念ながらポイ捨てされたごみの量が増えているのです。ですから試合の翌日は毎回、ごみ拾いをしています。それはうちだけでなく、近隣の企業や住民の方々も行ってくださっています。こうした動きが、私たちのような企業から地域全体へ、そして仙台市民の皆さんへと広がっていくと、さらに仙台はきれいなまちになるでしょう。今後は、地域の皆さんとも協力してやっていけたらいいですね。

聞き手：では、「やって良かった」と思うのはどんな時ですか。

高橋さん：自分たちのまちがきれいだと、それだけで気分がいいですね。すれ違う方々に「おはようございます」、「ありがとう」と声をかけていただけるのもうれしいです。また、雪が降り積もった朝は少し早く出勤して、全員で社屋前と横断歩道の雪かきもしているんです。通学途中の小・中学生、高校生がスムーズに歩く姿を見ると、「やって良かったな」と思います。それから、社員一人ひとりの環境に配慮しようという意識が高くなったとも思いますし、ごみを拾うこともそうですが、雪かきをすることで、「地域の皆さんに安全に気持ちよく歩いていただこう」という「思いやり」の心を育てることにつながっているのを実感しています。



室内のリフォームで使用した畳の端材を、再利用して作った手作りコースター。お客さまにプレゼントして喜ばれているそうです。

聞き手：例えば、どんな時に「思いやり」の心が育っているなど感じますか。

高橋さん：東日本大震災直後、地域の皆さんはもとより、県外の方々からもたくさんの応援や励ましをいただきました。その気持ちに応えるためにも、お客さまに対して、できる限りのことをしていこうという思いが強くなりました。あいさつをするように、ごみが落ちていたら拾う、仕事の現場で出た材料の端材を再利用するための知恵を出し合う。そんなちょっとしたことにも、積極的に配慮できるようになったと思います。

聞き手：それはすばらしい変化ですね。では、最後に今後の抱負を聞かせてください。

高橋さん：「あたり前のことを、あたり前にやり続けること」が、実は一番大変なことではないかと私自身は思っています。だからこそ、どんな時も「あたり前のことを、あたり前にやり続けること」をモットーに、自分たちのまちをきれいにするアレマ活動を含めて、地域に、そして一人ひとりのお客さまを思いやり、心を込めた仕事をしていきたいと思っています。

妙法産業(株)のごみ拾いスタイル! 地域の皆さんへの「恩返し」の気持ちを込めて、全員参加で行っています。

毎月第3土曜日、会社のユニフォーム姿で、17名の社員全員でアレマ活動を行っています。効率を考えて17名がふた手に分かれ、社屋前から1班が右回り、もう1班が左回りにスタート。30分から40分ほどの時間をかけて、念入りにごみを拾っています。





「アレマ隊」の活動は、市民が自らの手で「まちをつくる活動」です。

今年度、アレマ隊は多くの市民や学校、企業の皆さんの協力を得て、発足15周年を迎えました。そこで、“アレマ隊の生みの親”とも言うべき紅邑晶子さんに、どのようにしてアレマ隊活動は始まったのか、これからアレマ隊に期待することなどを伺いました。

市の条例に市民の声を反映させた画期的な取り組み。

聞き手：アレマ隊誕生から15年が経過しましたが、いまの率直なご感想をお聞かせください。

紅邑さん：15年も経ったなんてびっくりです(笑)。誕生当初、アレマ隊活動に参加していた小学生は、いまはもう社会人でしょうから、それだけ長い間、この活動が参加者を増やしながらかつていることはとてもうれしいですね。また、まち美化サポーターとしてアレマ隊活動している企業が多くあると聞きました。アレマ隊活動に参加している市民の方々は「仙台市民の誇り」といっても良いと思います。

聞き手：仙台市がポイ捨てごみの条例を見直す際に、そのやり方について市が、早くから自発的な市民の活動を支え、市民参加・市民協働を促してきた実績のあるせんだい・みやぎNPOセンターに相談したのが始まりと聞いていますが、そもそも、アレマ隊はどのような経緯で誕生したのですか。

紅邑さん：仙台市がポイ捨てごみに関する条例を見直そうとしたとき、全国を見渡すと抑止力をもたせる意味で罰則を設けている都市が多かったのです。そこで、仙台市にはどのような条例がふさわしいのかということで、市の方が相談に来られました。でも、私たちは環境をテーマにした団体ではないので、ポイ捨てごみの解決ということではなく、「まちづくり」という視点で、ポイ捨てごみの問題をとらえることを提案させていただきました。そこで、まず市民の声を聞かせていただくことを目的としたフォーラムを、各区ごとに開催することになりました。

聞き手：市の条例に市民の声を活かそうとした、ということですか。

紅邑さん：そうですね。条例づくりに、市民の方々にも関わってもらいましょうというアプローチは、画期的なことだったと思います。

最初に市の方にフォーラムの趣旨をわかりやすく説明していただいたあと、私たちが進行役となってワークショップを行いました。ポイ捨てごみの何が問題だと思っているのか、それを解決するにはどんな方法があるかといったテーマを設けて、4人程度のグループで話し合ってもらい、出された意見を付せんを書いて、ホワイトボードに貼り付けていきました。これは、参加者の思いを可視化することで、「自分と同じ思いの人がいる」とか、「こんな考え方もあるのか」といったことを、わかりやすくするためです。

このようなフォーラムを仙台の5つの区で行ったあと、仙台市では条例案づくりに入りました。そして、これも珍しいことだと思いますが、この条例案をフォーラムの参加者全員に郵送して見ていただき、皆さんからご意見をいただくというやり方で、条例づくりを進めていきました。

聞き手：それをもとに、仙台市が最終的な条例にまとめあげたのですね。

紅邑さん：はい。当時、ポイ捨てごみに関しては、罰則が設けられた条例が多かったのですが、仙台市の条例は「この条例に罰則はありません。でも支援はあります」というキャッチフレーズが物語るように、「ポイ捨てごみをどうにかしたいという思いで行動してくれる市民に対して、仙台市はサポートをします」という条例をつくったわけです。



特定非営利活動法人
せんだい・みやぎNPOセンター
代表理事 紅邑 晶子さん

せんだい・みやぎNPOセンターは、仙台・宮城で活動するNPOが活動しやすい社会環境を整え、NPOと行政や企業、市民との出会いの機会を創り出すことを目的に、さまざまな活動を行っています。東日本大震災後は、県内の被災地へ行き、復興支援活動も精力的に行っています。



条例パンフレットやアレマ新聞など

聞き手：いよいよ「アレマ隊」が誕生するわけですね。

紅邑さん：そうですね。条例ができあがったら、それを実行するための行動計画を立てるわけですが、その中心を担うことになったのは、市民で構成される「アレマ隊」です。「アレマ隊」というのは、ポイ捨ての現場に遭遇したとき、見て見ぬふりをして通り過ぎるのではなく、「アレマ!」と驚いて見せることで、「ポイ捨て反対」の意思表示を行う人たちのことで、具体的には、ポイ捨てごみを拾ってまちの美化に努める方々です。

当初、遊び心でアレマ隊の隊員証をキャンペーンチラシに刷り込んで、アレマ隊活動に参加して下さる方々に活用していただくと考えたのですが、皆さんが清掃活動を行うときに胸元や帽子に付けてくださったり、ネームプレートのように首から下げているのを見て、こちらが考えていたことと違う展開に、素直に「市民ってすごいな」と思いました。

住み心地の良いまちを市民の手で。

聞き手：まちの美化に関する条例が、市民の声から生まれたということは、この仙台の取り組みは先進的だったと言えるのでしょうか。

紅邑さん：そう思います。私が行政の職員研修や、NPOの関係者を前にしてアレマ隊などの仙台市の取り組みをお話しさせていただくと、ごみの問題は地域共通の課題ということもあり、どの会場でも皆さん、「おーっ」と声に出して驚きを表現してくれましたから、他都市にはない取り組みだったのではないのでしょうか。

また、仙台のまちに来られた方々の多くは、「こんなに大きな都市が、こんなにきれいだとは」と驚かれます。そんなとき、いつも私は心の中で「アレマ隊(の活動の成果)だべな」と思っているんですよ(笑)。

聞き手：アレマ隊普及のための活動として何か行ったことはありますか。

紅邑さん：夏休みに、親子などが参加しての「アレマ隊講座」を開催して、ごみ拾いワークショップなどを行ったことがあります。会場が市民センターのときなどは、小さいお子さんを連れのお母さん、センター職員の家族、ご近所の方々など、皆さん集まってくださり、世代を超えた交流が生まれました。色々な世代の方々が一緒になって何かを行うことは難しいことかと思いましたが、だれにとっても身近な課題である“ポイ捨てごみ”に照準を合わせると、みんなで話をするきっかけがつかみやすく、様々な気づきを得ることができました。

聞き手：現在の「アレマ隊」の活動をご覧になって、どのような感想をおもちですか。

紅邑さん：小学校でアレマ隊活動を行った生徒さんがたが、ポイ捨て防止ソングをつくったり、「アレマ隊」ができた当初から活動している方が、15年経った現在も活動を続けていることを知りうれしく思います。まちづくりへの参加意識を引き出す機会をつくるのが行政の仕事であるならば、その呼び水的な役割をするのが私たちのようなNPOだと思っているので、その役割を少し、果たすことができたのではないかと考えています。

聞き手：最後に、これからの「アレマ隊」に、どんなことを期待しますか。

紅邑さん：「アレマ隊青葉区支部」というように、ポイ捨てごみを拾う「アレマ隊活動」が一つのきっかけとなってできあがったコミュニティ、いわゆるアレマ隊コミュニティが各地にできて、そこに世代を超えた方たちが集い、人と人、コミュニティとコミュニティがつながっていくことによって、地域をよりきれいにしていこうとするネットワークが構築されることを期待します。それは、取りも直さず、住み心地の良いまちを市民の手でつくっていくということであり、行政と市民が協働していくことの価値を、この仙台から発信していくことができれば素晴らしいですね。

また、仙台市内では復興公営住宅の建設が進んでいます。アレマ隊活動を新しいコミュニティと既存のコミュニティをつなぐ“ツール”(道具)として、活用していただければと思っています。

これからも、折にふれて「アレマ隊」の皆さんが、ときには遊び心をもって、楽しみながら活動していることを自慢していきたいと思ひますし、また私たちが協力できることがあれば、ぜひお手伝いしたいと思ひます。